

【榎の実学習会】 地域の方の生き方に学ぶ

これまで小学生の学習会では、地域の歴史や施設について調べ学習をしてきました。今回は、「地域の方の生き方に学ぶ」をテーマに、町内でジーンズ縫製ショップを開いている竹永正俊さん（下榎）の事務所兼工場「B.O.T」を訪問し、お話を聞きました。

子どもたちは、竹永さんに「将来の夢を叶えるためにどんな努力をしてきたのか」などを質問。竹永さんから、「地道な努力をすること」「成功している人のアドバイスを聞くこと」「言い訳をせずやり続け

ること」など、3つの大切なアドバイスをもらいました。努力し夢を叶えた人の言葉は、話を聞いた小学生の心に深く残ったようです。

また、竹永さんは実際に生地を縫いながら、「こだわりのミシンにはそれぞれ役割があり、大切に扱っている」と話しました。

地域で努力している人から話を聞き、調べ学習をしたことで、子どもたちも将来の夢に少し近づけたのではないかと思います。



▲自身の工房で質問に答える竹永さん（中央）



▲ヴィンテージミシンを使用し縫製

9月16日、毎週木曜日に開催している「いきいき百歳体操」の後、消費生活相談員の佐藤亜紀子さんから、最近の消費生活相談に寄せられている事例についてお話がありました。

相談者の元に「不用品を引き取ります」と電話があり、業者が来訪。しかし業者の目的は着物や古着ではなく、貴金属など高級品の買い取りで、アクセサリーや貴金属はないかとしつこく迫られたそうです。自宅に業者が来ると断りきれないこともあるので、安易に来訪を承諾しないようにしましょう。

また、コロナ禍の外出自粛などで在宅率が高いこともあり、屋根や外壁の修理にかかわる相談も増えているほか、一方的に品物を送りつけてくる「送りつけ商法」や、インターネットから入る情報（もうけ話）に引っかかる事例も多くみられるそうです。

佐藤さんは、契約にかかわるクーリングオフ制度について説明。また、「その場で契約しない、誰かに相談することが大切」と話し、「困ったと思ったら、消費生活相談室に連絡してください」と締めくくりました。



「悪質商法お断り」
—消費生活相談員さんのお話—

..... 11月の行事予定

- ◆第44回日野町解放文化祭 日時：11月6日（土）・7日（日） 展示のみの開催です。
- ◆クレイフラワー教室 日時：11月13日（土）・27日（土） ツバキの花を作ります。
- ◆創作教室 内容：日程などは調整中です。お楽しみに！

※参加申込みなどのお問い合わせは下榎隣保館まで（電話 72-1191） お気軽にお越しください♪

農業委員会だより No.89

水稻の苗代等助成制度の活用を！

昨年度農業委員会は、町に対して水稻の苗代助成制度の創設を要望しました。そして本年度、品質向上や収量UP、高付加価値などに取り組む米作り農家の、水稻の苗購入や育苗に要する経費を補助する制度が創設されました。申請期日は12月28日（火）までですので、積極的に活用してください。



【対象農家】 次の①から③の要件をすべて満たす農家

- ①中山間地域等直接支払制度の集落協定に参加していること
- ②生産した米を出荷・販売していること
- ③「食味コンテストへの出品」、「町内畜産堆肥の散布」、「ブランド米の生産」のいずれか1つ以上に該当していること

【補助金額】 10a 当たり 2 千円 【補助上限】 1 農家当たり 10 万円

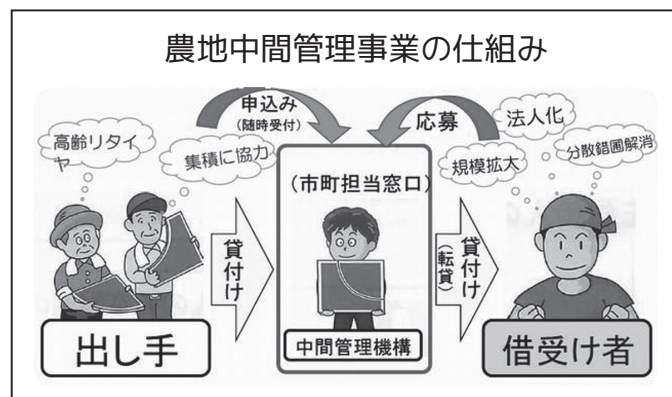
詳しくは、役場産業振興課（電話 72-2101）までお問い合わせください。

農地中間管理事業を利用しましょう

公益財団法人鳥取県農業農村担い手育成機構は、地域ぐるみの話し合いを通じて、農地の貸し借りの間に入る農地中間管理事業を実施しています。この事業を利用すると、機構集積協力金などが受けられる場合があります。

詳しくは、農業委員会までお問い合わせください。

農地中間管理事業：農地を一体的なまとまりとして効率的に担い手農家などに集積する事業。農地中間管理機構が町や農業委員会と連携して貸し借りの相手を探します。



リレーコラム



農業委員 谷口 勇
担当地域：日野地区

今年も収穫の季節が来ましたが、稲の作柄はどうだったでしょうか？

収穫を前に、「今年の米の値段はコシヒカリで概算払い 5,300 円と大きく下落しそうだ！」との話を聞きました。私自身、新型コロナウイルスの影響により農業経営も一段と難しくなっているのは分かります。高収入とは言いませんが、少し黒字の経営ができればと思っています。

町農業委員・農地利用最適化推進委員になりまして、5 年が経ちます。町で毎年農地パトロールをしますと、年々

農地の荒廃が進んでいく現実を見ます。特に国道から見えにくい農地は、荒廃化が進んでいます。

農業委員会でも、積極的に地域に出かけ話し合いをしています。出かけてみて感じることは、地域にリーダーのいる集落は、農地の保全や集積などの取り組みが進み、活気にあふれていることです。地域を引っ張る次世代リーダーの育成が、農業農村の持続的な発展のためには最優先で取り組むべき課題であると考えています。一緒に頑張っていきましょう。